

平成29年度 キャリア教養学科 1年

専門科目

アカデミックスキルズ	01	コミュニケーション論	14
労働法制と人権 I	03	TOEIC演習 I	15
労働法制と人権 II	04	リーディングスキルズ	16
経営学基礎	05	リーディングスキルズ II	17
地域形成論	06	北米の歴史と文化	18
生涯学習概論	07	観光英語 I	19
キャリアマネジメント	08	英語演習(Basic)	20
簿記入門	09	キャリア教養特講 I	21
キャリア形成論	10	キャリア教養特講 II	22
キャリア形成演習 I	11	キャリア教養特講IV	23
キャリア形成演習 II	12	インターンシップ	24
プランニング入門	13		

アカデミックスキルズ

概要

短期大学で学ぶために必要なアカデミックスキルと基礎力の強化を目的とする。全員で学ぶ講義形式、輪講式、各顧問別の授業、体験型ワークショップ、プレゼンテーションなどの組み合わせによって、総合的な「学ぶ力」を養成する。

担当教員	山野実他キャリア教養学科全教員
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	45分×30回
単位数	2

目標

本科目で学んだことを、常に他科目の学習やさまざまな場面で応用し、自らの「学びスタイル」を模索し、構築できるようになること。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ノートテイキングのしかた(1)～ノートは何のためにあるか～
3. ノートテイキングのしかた(2)～それぞれのノートテイク工夫点・相違点～
4. ノートテイキングのしかた(3)～総括：ノートテイクからの気づき～
5. レジュメの活用法
6. レジュメを作ってみよう(1)
7. レジュメを作ってみよう(2)
8. 学生像の国際比較～私が感じた外国の大学～
9. 輪講式授業(第1週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
10. 輪講式授業(第2週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
11. 輪講式授業(第3週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
12. 輪講式授業(第4週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
13. 輪講式授業の振り返り
14. 先生たちのオススメ勉強法
15. アカデミック・スキルズ前期総括
16. アカデミックスキルズ後期の概要
17. 読解のスキルとレジュメ作成(1)
18. 読解のスキルとレジュメ作成(2)
19. プレゼンテーショントレーニング(1)～プレゼンテーションとは何か～
20. プレゼンテーショントレーニング(2)～プレゼン方法のディスカッション～
21. プレゼンテーショントレーニング(3)～プレゼンの構成づくり～
22. プレゼンテーショントレーニング(4)～ビブリオバトルの技法を用いたプレゼン実践～
23. 英語でプレゼンテーション練習
24. 英語でプレゼンテーション演習～Recitation Contest～
25. ダウンサイジングとは
26. ダウンサイジング演習
27. 研究テーマのダウンサイズ
28. 特別研究は何のためにあるか
29. 2年次のカレッジライフの展望づくり～2年次の履修ガイダンス～
30. アカデミック・スキルズの年間総括

アカデミックスキルズ

準備学習（予習・復習等）

事前に指示されたことを予習しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席状況および授業への参加態度30%
ふりかえりシート70%

教科書

特になし。

参考文献

必要があればその都度、紹介する。

労働法制と人権

概要

短期大学を卒業後、多くの学生が就職をする中、労働の現場ではブラック企業やハラスメント等、労働問題が後を絶たない。そこで、本授業では、就職後にトラブルに巻き込まれないように、労働に関する基本的な法知識と関連するケースを講義していく。また、労働問題を理解する前提となる基本的人権や契約に関する基礎知識も講義する。更に、事例を使って労働問題に向き合うグループワークを実施する等、能動的な学びを実践する。グループワークでは、意見をまとめ、報告書を作成する等の課題を実施する。また、講義で学んだ知識を定着させるため確認テストも実施する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・労働法の基本的な知識を習得することができるようになる
- ・基本的人権を理解することができるようになる
- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題に対する具体的なイメージが持てると共に、その問題の争点や様々な考え方を理解し、自分の意見を持つことができるようになる

各回の内容

1. 働くことに関する法律について
2. 基本的人権と労働 ~労働者の権利と企業の権利~
3. 基本的人権と労働 ~人権への制約が許されない場合~
4. 労働契約~企業と労働者が負う義務~
5. 就業規則に関する問題
6. 時間外労働に関する問題
7. 過労死について
8. パワー・ハラスメント ~パワー・ハラスメントとは~
9. パワー・ハラスメント ~事例から考える~
10. 業務命令と人権
11. 採用・内定・試用期間に関する問題
12. 人事異動に関する問題
13. 労働基準監督署の役割
14. 労働条件の変更に関する問題
15. 労働契約の終了に関する問題
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験40%、確認テスト30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書等）15%、リアクションペーパー15%
- （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する）
- （試験の解答・解説は掲示する。）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

労働法制と人権

概要

女性や性的少数者、非正規労働者等は労働現場において基本的人権が侵害されてしまう場合が少なくない。そこで、本授業では、これらの人々の権利保護に関連する労働法の知識を中心に講義を行う。また、フェアトレードや経済難民等、国際的な問題にも積極的に触れ、グローバルな視点も養う。

更に、事例を使って労働問題に向き合うグループワークを実施する等、能動的な学びを実践する。グループワークでは、意見をまとめ、報告書を作成する等の課題を実施する。

また、講義で学んだ知識を定着させるため確認テストも実施する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・労働法の基本的な知識を習得することができるようになる
- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題に対する具体的なイメージが持てると共に、その問題の争点や様々な考え方を理解し、自分の意見を持つことができるようになる
- ・国際的な労働人権問題を理解できるようになる

各回の内容

1. 労働法と人権法理・契約法理について
2. 基本的人権と労働 ～幸福追求権～
3. 基本的人権と労働 ～プライバシー～
4. 非正規労働者の権利について
5. 社会保険制度について
6. 男女共同参画社会の実現と労働
7. 男女平等と労働
8. 介護・育児と労働
9. セクシャル・ハラスメント
10. 性的少数者と労働
11. マタニティ・ハラスメント
12. 女性の労働をサポートする行政の取り組み
13. 労働と国際人権 ～ILOとは～
14. 労働と国際人権 ～フェアトレード～
15. 労働と国際人権 ～経済難民～
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書等）15%、リアクションペーパー 15%
- （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する）
- （試験の解答・解説は掲示する）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

経営学基礎

概要

企業活動に関する理論を事例等を通して体系的に学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業行動の背景にある企業の論理を理解し、現実の企業の様々な活動をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経営学とは

2. 企業の戦略(1)

3. 企業の戦略(2)

4. 企業の戦略(3)

5. 企業の戦略(4)

6. 企業の戦略(5)

7. ケース・スタディ(1)

8. ケース・スタディ(2)

9. 組織のマネジメント(1)

10. 組織のマネジメント(2)

11. 組織のマネジメント(3)

12. 組織のマネジメント(4)

13. 組織のマネジメント(5)

14. ケース・スタディ(3)

15. ケース・スタディ(4)

16. 試験

準備学習(予習・復習等)

企業に関するニュースに問題意識をもって接する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート40%、試験60%

教科書

必要に応じ、レジュメ等を配布する。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

地域形成論

概要

「地域」を形成している要素は何か。そもそも「地域」や「コミュニティ」とは何かを探る。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「地域の活性化」などの言葉を簡単に聞き流すことなく、情報を自分なりにキャッチでき、かつ分析しながら、新たな地域を形成していくための提案ができるようになる。

各回の内容

1. 「地域」「コミュニティ」の定義
2. なぜ今「地域形成」なのか
3. 成熟社会とその課題
4. 自然発生的地縁団体史
5. ボランティアとは何か
6. 現代におけるNPOの存在意義・現状・課題
7. 地域史の学び方・地域の魅力の掘り出し方
8. 地域形成への提案（1）
9. 地域形成への提案（2）
10. 地域形成への提案（3）
11. 人をつなげる地域づくり演習（1）
12. 人をつなげる地域づくり演習（2）
13. 人をつなげる地域づくり演習（3）
14. 「らしさ」とは何か
15. まとめ：一歩踏み出す力を見つける
16. 最終論述考査

準備学習（予習・復習等）

地域づくりや復興に関するニュースや新聞記事、雑誌記事をできるだけ集めておく。またその記事に関して、自ら考えたことをまとめ、整理しておくこと。そのほか、授業中に指示されたことを調べる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループプレゼンテーション20%、振り返り用紙からみる理解度30%、最終論述考査50%

教科書

特になし

参考文献

その都度、紹介する。

生涯学習概論

概要

学歴社会から学習社会に移行している昨今、何を学び、その学びをどのように生かすのかが問われている。「生涯学習」という言葉はようやく定着してきたが、その中身についてはほとんど語られない。この授業では、生涯学習とは個人レベルの学習から地域づくりまで幅広く、民間や行政がさまざまな努力をして初めて生涯学習社会が構築されていくということを学んでいく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「ゆりかごから墓場まで」、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が評価される社会において、個人が自らの生きがいを見つけ、充実した人生を他者と共に学び合うことが生涯学習の主眼であることを理解できる。

各回の内容

1. 生涯学習の基本的な考え方
2. 生涯学習社会構築の必要性
3. 生涯学習社会構築への取り組み調査(1)
4. 生涯学習社会構築への取り組み調査(2)
5. 地域における社会教育・生涯学習施設(1)
6. 地域における社会教育・生涯学習施設(2)
7. 地域における社会教育・生涯学習施設(3)
8. 成年期の学習ニーズとボランティア
9. 団塊世代と生涯学習
10. 高齢者の生涯学習と実践活動
11. 大学拡張論
12. 生涯学習プログラミングの実践(1)
13. 生涯学習プログラミングの実践(2)
14. 生涯学習プログラミングの実践(3)
15. 知識基盤社会と将来の展望
16. 最終試験

準備学習(予習・復習等)

生涯学習・成人教育に関連するニュースに関心を持つ。グループワークによる生涯学習プログラム調査などに備える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りシートの記述内容20% プレゼンテーション30%、グループワークへの姿勢20%、最終記述試験30%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2008年)

参考文献

その都度、紹介する。

キャリアマネジメント

概要

ライフキャリア、ワークキャリアを考えるために、まず自己との対話を行う。次に問題解決対応能力や職業興味を考えながら、1年次後期の履修計画を立てる。

担当教員	加藤竜哉・後藤真・山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1)自己の持つ長所や傾向を客観的に分析・理解した上で自律学習に積極的に取り組むことができる。
- 2)職業興味を深めることができる。
- 3)タイムマネジメントとスケジュール管理の具体的手法を身につける、必要な1年次後期からの履修計画を立てることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、各目標、他科目との関係について、卒業までに獲得すべき能力
2. 導入：構成的グループエンカウンター ～他者と関わるためのキッカケづくり～
3. 自己理解：自分を知り、自分を受けとめる
4. 相互理解：自分を伝えるためのコミュニケーションスキル
5. 帰属感：グループの中のわたし ～貢献し合うチームビルディング～
6. ワークショップまとめ：モノローグからダイアログへ
7. 自分の職業に対する興味を知る
8. 職業興味を深める
9. どんな資格、どんな学問
10. 上手な悩み方とは
11. 問題に対する対応を考える
12. 長期的な目標と短期的な目標設定
13. 計画力をつける、スケジュール演習（1）
14. スケジュール演習（2）
15. 進路決定と1年後半の履修計画：後期授業とのかかわりについて

準備学習（予習・復習等）

事前事後：

毎回の授業で課された課題をもとに授業を展開することになるので、指示された課題作成し、忘れずに持参すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 1) 参加態度75%：毎回レビューシートに学習内容の気づきや振り返りを記入して提出(各回5点×15回)。
- 2) 課題レポート25%：レポート課題は授業時に紹介。各教員の評価値合計を平均して評価点を算出する。
素点合計 = 1) + (加藤、山野、後藤の各25点) ÷ 3

教科書

なし
適宜、プリント配布

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書
渡辺健介『世界一やさしい問題解決の授業』ダイヤモンド社

簿記入門

概要

簿記の基礎として、簿記の目的、企業で用いる複式簿記について学ぶ。
 企業における経営活動を簿記のルールに基づき、取引の仕分、勘定への転記、決算処理に至る手続きについて学ぶ。
 さらに、一定時点の財政状態を表す貸借対照表、一定期間の経営成績を表す損益計算書について学ぶ。

担当教員	菅野 貴夫
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1・2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業における様々な経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法(技術)としての簿記の基礎(日商簿記3級程度)を理解する。
 さらに、簿記の目的である、企業における一定時点の財政状態や、一定期間の経営状態を明らかにすることについても理解する。

各回の内容

1. 簿記の基礎
2. 商品売買
3. 現金預金
4. 手形
5. 有価証券と固定資産
6. その他の取引
7. 帳簿
8. 試算表
9. 伝票会計
10. 決算手続
11. 決算手続
12. 決算手続
13. 演習
14. 演習
15. 演習
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

予習(事前にテキストを1回以上読んでから講義に臨む)、復習(講義の復習として練習問題は2回以上行う)予習以上に復習に時間をかける。
 計算手段として電卓を準備する。(12桁表示、携帯電話・スマホ等は不可)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験70%、授業の中で実施する小テスト30%

教科書

滝澤ななみ『TAC簿記の教室シリーズ 簿記の教科書(日商簿記3級 商業簿記)』TAC出版
 ISBN978-4-8132-5254-2 定価 本体800円 <最新版>

参考文献

必要に応じて、授業で紹介する。

キャリア形成論

概要

1年生後期からスタートする就職活動や編入対策に向けて、将来を見通した選択ができるように、社会人とは何か、人生設計とは何か、自立のために必要なことは何か、今何をすべきかを考えていく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

一人一人が平等に与えられている24時間という「時間」を意識的に捉え、将来を見据えた計画の重要性が理解できること。計画を愚直に行動へ移そうという意識へ変換できること。これを本科目の目標にする。

各回の内容

1. イントロダクション
2. ライフキャリアとワークキャリア
3. 協働することとは
4. タイムマネジメント(1)～何が動きのムダをつくるか～
5. タイムマネジメント(2)～自分の動線を創る～
6. 手帳学～目標の可視化の重要性～
7. 社会人とは何か(1)～チームで定義探し～
8. 社会人とは何か(2)～チームでPPTづくり～
9. 社会人とは何か(3)～プレゼンテーション1～
10. 社会人とは何か(4)～プレゼンテーション2～
11. 藤本篤志『社畜のススめ』を読み解く
12. 滝本哲史『僕は君たちに武器を配りたい』を読み解く
13. 「自分ノート」と“武器”探し
14. 21世紀に求められる能力
15. 総括
16. 論述テスト

準備学習(予習・復習等)

「働き方」「女性の活躍推進」など、現代社会でテーマになっている課題について常に調べておくこと。また、自らのライフキャリアデザインを見える化できるように努力すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーション態度30%、論述テスト50%、振り返りシートにおける理解度20%

教科書

特になし

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア形成演習

概要

2日間の集中科目なので、1日休むと単位を取得できない。
 インターンシップを実施する前の心構えと、目的を明確にし、自身の目標を設定する。最終日にグループプレゼンテーションを行う。
 インターンシップに参加する学生は、必ず履修すること。
 2年生（インターンシップ経験者）に直接インタビューできる貴重な機会を設けている。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	集中（2日間）
単位数	1

目標

インターンシップのための事前学習。演習によって、自己を知り、自己を表現できる。
 インターンシップで具体的に学びたいこと得たいことを明確にできる。
 グループ発表に向けてインターンシップの目的や目標を設定し、プレゼンテーションできる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. OP1：グループを作る メンバーを理解 グループ名を付ける
3. OP2：「インターンシップって何？（1）」先輩からの情報収集するための準備
4. OP3：「インターンシップって何？（2）」先輩にインタビューし、グループでまとめる
5. 講評・前半のまとめ
6. OP4：「インターンシップで得たいこと学びたいこと」をグループでまとめる
7. OP5：「インターンシップで得たいこと学びたいこと」発表
8. OP6：インターンシップに向けてのアクションプラン作成
9. OP7：アクションプランの発表グループ発表
10. インターンシップ事前研修の総まとめ

準備学習（予習・復習等）

インターンシップで講義した内容を各自ふりかえっておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人ワーク&グループワーク態度20%、発表と評価30%、成果物提出50%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア形成演習

概要

インターンシップの事後学習。
インターンシップで得たこと学んだことを整理し、各自ポスターセッションを行う。

【注意】2日間の集中講義。1日欠席で、単位取得できません。
インターンシップに参加した学生が履修できる。
盛岡のインターンシップ交流大会に参加学生は、履修登録後、この科目の履修は免除される。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	集中(2日間)
単位数	1

目標

インターンシップで得たことを自ら整理することができる(前期で学習した手法を利用)
インターンシップで学んだことを個人発表することができる。
インターンシップで学んだことを自身の進路に活かすことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ゲームでグループホームを作る(パーソナルエコマップの使用)
3. ホームや旅に出て、インターンシップを振り返る(パーソナルエコマップの使用)
4. 自己評価と企業評価の比較から事故の改善点を知る
5. ポスターセッションの準備、ポスターセッション(全員発表)
6. 具体的改善計画を作る
7. 他者の改善計画を参考に、改善計画を修正する
8. まとめ

準備学習(予習・復習等)

日報、報告書などインターンシップ関連資料を忘れないこと。
インターンシップ振り返りシートを記述する。
企業評価シート(当日返却)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

1日毎の学習振り返りシート(各20%×2日)、ポスター資料作成30%、改善計画資料作成30%

教科書

なし

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

プランニング入門

概要

この授業では、一つのアイデアを放射線状に広げる思考力の向上を根幹に置く。いわゆる「企画力」である。何らかのたたき台をいかにアレンジできるか、誰かに何かを頼まれたとき、自主的に斬新なアイデアを付け加えて提案できるかということは、将来非常に重視される点である。このような力の礎を醸成することを目的として授業を行う。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

事業やイベントを企画したり複数の事業などをつなげ、コンサルタントを行うプランナーという仕事を、理論と演習を通して理解することができる。

各回の内容

1. 本授業の目的と詳細
2. 内容の説明プランナーとは何か。
3. 代表的なプランナー例
4. なぜつまらない企画ができるか。
5. マネジメント論
6. ラフプランニング演習 - 視点 -
7. ラフプランニング演習 - 視野 -
8. ラフプランニング演習 - ニーズ -
9. プランプレゼンテーション比較
10. プラン演習(1) - 日常のタスクプランニング
11. プラン演習(2) - ライフプランニング
12. プラン演習(3) - ソーシャルプランニング
13. プランプレゼンテーション統合
14. 逆算思考とタイムマネジメント
15. 求められている能力とは

準備学習（予習・復習等）

週刊誌、テレビ、地域活性企画にアンテナを立てておく。また地域づくりや地域連携の重要性が分かる著書、記事などに目を通しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

フィードバックシート提出と内容50%、チームプレゼンテーション30%、最終論述試験20%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

コミュニケーション論

概要

講義中心だが、ミニ実験やグループワークも有り
人と人のかかわりは、コミュニケーションである。今までの生活を振り返りながら、人に対する固定観念の打破を目指す。常に双方向の対話を行いながら、語りかけ・問いかけ・投げかけ、さまざまな視点から、人間社会のコミュニケーションの原点である対人コミュニケーションを学ぶ。
自問自答（考）しながら、心理学の視点も取り入れ学習する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

さまざまな視点で学習した「コミュニケーション」について、自分の文章で課題を作成することができる。

各回の内容

1. コミュニケーションは技術！？（オリエンテーション含）
2. ICTコミュニケーションとリアルコミュニケーション
3. 印象形成と「他者と自己」のイメージ（ミニ実験による課題提出）
4. 自己開示と自己呈示
5. 自己呈示：特に防衛的自己呈示
6. 自己洞察・省察とコミュニケーション
7. アサーションとは：自己のアサーション度を知る
8. アサーション演習（1）
9. アサーション演習（2）
10. WhyをWhatに変える訓練
11. 恋愛コミュニケーション
12. 改めてコミュニケーションって何？（グループディスカッション含）：課題提出
13. 集団コミュニケーション
14. マスコミ・リスクコミ・メールコミ・SNSコミ、LINEコミも？
15. 総まとめ

準備学習（予習・復習等）

事前学習：各单元ごとに、普段のコミュニケーションについて振り返っておく。

事後学習：課題作成、学習した内容を普段の生活に取り入れ、実践する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り及び（各回5点×15回を100%として60%に換算）、提出課題60%（授業内課題20%、期末課題40%）

教科書

なし。担当教員作成のプリントを適宜配布する。

参考文献

ダイアナ・ドゥワイアー著、小野隆信、社田径子訳、『対人関係の心理学』、大学教育出版、2017
他その都度、紹介する。

TOEIC演習

概要

This class will focus on the listening section of the TOEIC test. Each week will cover step-by-step skills development. Mini-tests will be given after each part. This course will be conducted all in English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will understand the parts of the TOEIC listening test.
Learners will gain knowledge of basic listening techniques.
Students will improve individual test scores (with a target of at least 500).

各回の内容

1. Introduction to Accents / TOEIC Listening Test (1)
2. Part 1 (Introduction)
3. Part 1 (Photographs)
4. Part 1 (Photographs)
5. Part 1 (Review) / Part 2 (Introduction)
6. Part 2 (Question-Response)
7. Part 2 (Question-Response)
8. Part 2 (Review) / Part 3 (Introduction)
9. Part 3 (Short Conversations)
10. Part 3 (Short Conversations)
11. Part 3 (Review) / Part 4 (Introduction)
12. Part 4 (Short Talks)
13. Part 4 (Short Talks)
14. Part 4 (Review)
15. TOEIC Listening Test (2)

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Do the weekly online listening activities and complete the individual e-learning problems.
（復習） Review the answers to the listening and the in-class activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Listening Test Improvement 30%,
Listening Homework 20%, E-learning 20%
Review Tests 20%, Participation 10%

教科書

「Pass the TOEIC Test (Introductory Course)」 First Press ELT

参考文献

リーディングスキルズ

概要

This is a basic reading course of 2,000 words with each unit having a passage of about 300 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will improve their reading ability and comprehension.
Learners will practice their pronunciation with each other.
Extensive reading material will be used for reading practice.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 6 introduction
6. Unit 6 review & Unit 8 introduction
7. Unit 8 review & midterm discussion
8. Midterm Review
9. Midterm follow-up & Unit 9 introduction
10. Unit 9 review & Unit 11 introduction
11. Unit 11 review & Unit 12 introduction
12. Unit 12 review & Unit 13 introduction
13. Unit 13 review & Unit 15 introduction
14. Unit 15 review & final discussion
15. Final Review
16. Final Class

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the audio CD to practice pronunciation for in-class reading.
（復習） Complete the comprehension questions for each reading and review the answers to the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 25%, Final Review 25%,
Vocabulary Quizzes 15%, Textbook Homework 15%,
Extensive Reading 10%, Participation 10%

教科書

『Reading Stream: Elementary 英語リーディングへの道：初級編』金星堂

参考文献

リーディングスキルズ

概要

This is a continuation of Reading Skills I. This is an intermediate reading course of 3,000 words with each unit having a passage of about 400 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will improve their reading ability and comprehension.
Learners will practice their pronunciation with each other.
Students will use teamwork to complete the in-class group work.
Learners will give their first in-class oral presentation.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 5 introduction
6. Unit 5 review & Midterm discussion
7. Midterm Review
8. Midterm follow-up & Unit 6 introduction
9. Unit 6 review & Unit 7 introduction
10. Unit 7 review & Unit 9 introduction
11. Unit 9 review & Unit 10 introduction
12. Unit 10 review & Unit 11 introduction
13. Unit 11 review & Final discussion
14. Final Review
15. Final follow-up & Book reports
16. Final class & Book reports

準備学習（予習・復習等）

- （予習） Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the audio CD to practice pronunciation for in-class reading.
（復習） Complete the comprehension questions for each reading and review the answers to the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 25%, Final Review 25%,
Vocabulary Quizzes 15%, Textbook Homework 15%,
Book Report 10%, Participation 10%

教科書

『Reading Stream: Pre-Intermediate 英語リーディングへの道：準中級編』金星堂

参考文献

北米の歴史と文化

概要

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

担当教員	ウィリアム マクマイケル
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

日本から多くの旅行者や留学生がカナダを訪れるようになってきているにもかかわらず、カナダという国について日本人が十分な理解をしているかと言えば、そうとは言い難い。そこで、この授業においてはカナダがどのような歴史を経て形成され、発展してきたのか、さらにまた現代カナダはどのような社会・政治・教育・経済・文化によって構成されているのかを、最新の事柄を中心に考察をしていきたい。また、授業の中で、随時「多文化共生大国」であるカナダのダイバーシティ教育や思想から学べる異文化適応のコツや、グローバルマインドの形成など、将来海外で活躍する為に必要なスキルについても参加型学習を通して学ぶ。

各回の内容

1. イントロダクション・導入「カナダのイメージと実態」
2. 多文化共生ってなんだろう？カナダから学ぶグローバル時代のメリット
3. カナダの歴史 先住民から植民地時代
4. カナダの歴史 独立から世界大戦後の社会変革
5. カナダの歴史 現代カナダ社会の形成からトルドー政権誕生まで
6. 小テスト
7. カナダの政治 政治構造の仕組みと日本との違い
8. カナダの政治 アメリカとの外交とPKO
9. カナダの文化 民族のモザイクがもたらす物
10. カナダの文化 赤毛のアンからシルクドソレイユまで
11. カナダの文化 ホッケーから考察するナショナルアイデンティティー
12. カナダの経済 日加経済交流の歴史と課題
13. カナダの教育 メディアリテラシーなど、特徴的な教育政策
14. 現代カナダの課題 移民とケベック問題
15. まとめ カナダの歴史と文化から何を学べるのか
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

本授業は原則参加型学習形態で行われる。そのため、授業の終わりに課される事前リーディング資料やビデオ視聴は、必ず授業前に行ってくることを求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 小テスト20%、期末試験40%
試験以外 参加態度（コミュニケーション・ペーパーの提出、グループワークでの発言）40%

教科書

毎回プリントを配布する

参考文献

飯野 正子編著、竹中 豊編著『現代カナダを知るための57章 エリアスタディーズ』明石書店、2013年

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約3,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定3級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的な会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定3級取得を目指す。英検3級以上又は英語 単位取得者が望ましい。

担当教員	佐藤夏美
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要な専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. レベルチェックテスト（観光英語検定過去問題）
2. Travel
3. Jobs and People
4. Getting on the Plane
5. At the Immigration and Customs
6. At the Airport
7. Review 1
8. Hotel (Accommodations)
9. Restaurant (Breakfast and Fast Food)
10. Sightseeing
11. Shopping
12. Transportation
13. Problems and complains
14. Traveling in Japan
15. Review 2
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%
 (各テストは講義で返却、解説をする。学期末テストは、実施後に模範解答で確認とする。)

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM Basic』三修社

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語演習 (Basic)

概要

英語初級学習者を対象に、洋楽を題材として用い、聴解と発音、読解を中心とした能力を総合的に養うことを目的とする。英語運用だけの能力の向上にとどまるのではなく、内容や題材に関する深い理解を行えるようにしていく。

担当教員	高橋未希
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	時間数 90分 × 15回
単位数	2

目標

英語を理解する上で必要になる聴解力や語彙力を養成し、定着させる。
英語を理解する上で必要になる文法や発音・アクセントを学習し、定着させる。
会話の中で必要な言い回しについて理解し、実際に運用できるようにする。

各回の内容

1. Introduction
2. Lesson1
3. Lesson2
4. Lesson3
5. Lesson4
6. Lesson5
7. グループプレゼンテーション
8. まとめ
9. Lesson6
10. Lesson7
11. Lesson8
12. Lesson9
13. 予備調査
14. ポスタープレゼンテーション
15. まとめ
16. 期末試験

準備学習 (予習・復習等)

毎週課される宿題を終わらせておくこと。

自分の立場や意見を述べることが求められるため、普段から様々な社会的物事に対して関心を高く持ち、意見を用意しておく。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Paper Test (試験) 40%、
Mini test (単語テスト) 20%、
Report (洋楽についてのポスターセッション) 20%
Class Participation (参加態度) 20%

教科書

"Smash Hit Listening"(マクミランランゲージハウス)

参考文献

必要に応じて指示する。

キャリア教養特講

概要

This is a class for students who would like to write essays and reports in English. Writing assignments will review skills learned online. Reading comprehension will also be checked through weekly homework assignments. Listening will be done in-class through Dictogloss activities. This class will be conducted all in English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 x 2
単位数	2

目標

Students will learn the skills needed to write multi-page English papers. Learners will improve their reading comprehension and listening skills. Students will increase their creativity by being active writers.

各回の内容

1. Course introduction
2. A Restaurant for Change
3. Computer Beats Champs
4. Want to Study Abroad?
5. A Student Budget
6. Cell Phone Etiquette
7. The Olympic Flame
8. Midterm Review
9. The World's Oldest Universities
10. Which English Will We Speak?
11. How Do You Celebrate?
12. The Age of Adulthood
13. Are you an Ophiuchus?
14. A Japanese Folktale
15. Final Review
16. Final Discussion

準備学習（予習・復習等）

（予習） Watch the online lesson to acquire necessary skills, read the text and answer the comprehension questions, write an essay on the given topic and bring it to class.

（復習） Read classmates' comments and teacher's corrections on the essay and review the answers to the text questions.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Weekly writing assignments 30%,
Midterm Review 20%, Final Review 20%,
Textbook Homework 20%, Participation 10%

教科書

「Active Skills for Reading 1」 Cengage Learning

参考文献

キャリア教養特講

概要

本授業は、ミクロやマクロの経済論を学ぶものではない。具体的な企業を取り上げ、分析研究し、サービス業に通底しているものは何かを見つけ出すことを軸とする授業である。ワークを含んだ講義とし、自ら体験することでの「気づき」と議論を通じての「他者の意見を学ぶこと」を重視していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

様々なサービス業に共通する根幹的、本質的な部分を理解できる。さらに今まで気づかなかった戦略に意識を向け、経営的視点を持つことができる。

各回の内容

1. イントロダクション
2. サービスとホスピタリティ
3. ディズニーランド研究(1)
4. ディズニーランド研究(2)
5. ディズニーランド研究(3)
6. サービス業の人材育成戦略
7. ストアコンパリゾンと消費者心理
8. コンビニ研究(1)
9. コンビニ研究(2)
10. コンビニ研究(3)
11. コンビニ研究(4)
12. 冠婚葬祭業研究(1)
13. 冠婚葬祭業研究(2)
14. 日本人とサービス
15. これからのサービス業の展望～総括
16. 筆記試験

準備学習(予習・復習等)

普段からサービス業界のニュースにアンテナを立てておくこと。特に人材教育、マーケティング戦略分野のニュースや記事を整理しておくこと。コンビニやディズニーなどの動きに注目しておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りシートにおける気づき30%、ワークにおける積極性20%、プレゼンテーション20%、記述試験30%

教科書

特になし。

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア教養特講

概要

ファイナンシャル・プランニング（人生設計に基づいて資金計画を立てること）に関する基礎知識を学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ファイナンシャル・プランニング技能検定試験（3級）の勉強を開始するのに必要な基礎知識の修得を目標とする。

各回の内容

1. ファイナンシャル・プランニングとは
2. ライフプランニングと資金計画（1）
3. ライフプランニングと資金計画（2）
4. ライフプランニングと資金計画（3）
5. リスク管理（1）
6. リスク管理（2）
7. リスク管理（3）
8. 金融資産運用（1）
9. 金融資産運用（2）
10. 金融資産運用（3）
11. タックスプランニング（1）
12. タックスプランニング（2）
13. タックスプランニング（3）
14. 相続・事業継承（1）
15. 相続・事業継承（2）

準備学習（予習・復習等）

ニュース、書籍等を通して、私たちの生活に影響を与える出来事について関心を高める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト75%、レポート25%

教科書

なし。必要に応じ、資料を配布する

参考文献

必要に応じ、紹介する

インターンシップ

概要

就職を考えている学生は、履修することが望ましい
インターンシップとは、職場において実際に就業体験をすることである。将来の職業選択に備え、自らの適性や能力について実践的に考える機会とすることが狙いである。

5日間以上のインターンシップが単位取得の最低条件

履修者は、「キャリア形成演習」とを履修することで、さらにインターンシップ体験を効果的にキャリア形成に生かすことができるので、履修を薦める。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

自らの職業の適正を知ることができる。
現在のスキルとインターンシップ先の要求スキルとの違いを知り、今後の方向を計画することができる。
自らの将来の職業選択について、インターンシップ前後でその差を知ることができる。

各回の内容

1. <事前講義>インターンシップ実施のために
2. <事前講義>職業的興味を知る
3. <事前講義>希望先企業研究と申込書作成:インターンシップ in 東北での申し込み等
4. <事前講義>インターンシップ先の検討と絞り込み
5. <事前講義>申込書の作成
6. <事前講義>申込書の作成の完成と提出
7. <インターンシップの実施>合計5日以上であれば、何日でも可
8. <インターンシップ実施中>日報の作成と企業側確認
9. <事後作業>お礼状の作成、報告書の作成と提出
10. ・以上のように、事前講義とインターンシップ実施(5日以上)、事後のお礼状および報告書作成で、1単位15時間+30時間以上を
11. 達成します。

準備学習(予習・復習等)

- <実施前>授業への出席と、自己の興味・希望を把握する
- <実施中>企業内の業務を通じた経験と振り返り
- <実施後>お礼状の作成・郵送、報告書の作成と提出

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 5日以上インターンシップ実績がない場合は、再履修(再試験無)
- <事前>毎回の授業の振り返り(各回5点満点×6回)20%
 - <実施中>インターンシップ中の実習日誌記録:30%(提出なき場合は、再履修)
 - <事後>インターンシップ後の実習日誌提出が前提
 - インターンシップ先へのお礼状送付、インターンシップ報告書提出の両方:30%
 - <総合>以上の内容と企業の評価を総合的に判断:20%

教科書

特になし、都度資料を配布する。

参考文献

都度、紹介する。